

第十四條 本會社ハ毎計算期終リノ翌日ヨリ其ノ定時株主總會終結ノ日ヲテ株式ノ名義ノ書換ヲ停止ス
 又々必要アル場合ニ於テハ一定ノ期間ヲ定メテ之ヲ停止スルコトアルベシ

第三章 株主總會

第十五條 本會社ノ定時株主總會ハ毎年六月及ヒ拾貳月ニテ之ヲ招集ス
 臨時株主總會ハ取締役會ニ於テ必要ト認メタルトキ之ヲ招集ス
 第十六條 株主總會ノ議長ハ社長之ニ任ジ社長事故アルトキハ他ノ取締役之ニ任ズ
 第十七條 總會ノ議事ハ豫メ通知シタル目的事項以外ニ涉ルコトヲ得ズ
 第十八條 各株主ハ壹株ニツキ壹箇ノ議決權ヲ有ス
 總會ノ議事ハ株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可ク同數ナルトキハ議長ノ決スルコトニ依ル
 法分ニ特別ノ定メアル場合ニハ此ノ限リニアラズ
 株金ノ拂込延滞中ノ株主ハ其ノ議決權ヲ行使スルコトヲ得ズ
 總會ニ出席セザル株主ハ委任狀ヲ以テ出席株主ニ其ノ議決權ヲ行使スル代理シムルコトヲ得
 第十九條 總會ノ決議及ヒ會議ノ經過ハ之ヲ決議録ニ記載シ議長及ヒ貳名以上ノ出席株主記名捺印ノ上ニテ保存ス

第四章 役員

第二十條 本會社ニ拾貳名以内ノ取締役及拾貳名以内ノ監査役ヲ置ク
 第二十一條 取締役及ヒ監査役ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス
 第二十二條 取締役及ヒ監査役ノ任期ハ壹ケ年トシ補缺役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス
 但シ期中最終配當期ニ關スル定時株主總會ノ終結前ニ滿リタルトキハ其ノ終結ニ至ルマデ之ヲ伸長スルモノトス
 第二十三條 役員ニ缺員ラ生ジタルトキハ臨時株主總會ヲ招集シテ其ノ補缺役員ヲ選任ス
 但シ法定ノ役員數ヲ缺カズ且業務ノ差支ヘナキトキハ取締役會ノ決議ニ依リテ之ヲ選任セザルコトヲ得
 第二十四條 取締役ハ在任中其ノ所有ノ當會社株式ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス
 第二十五條 取締役ノ互選ヲ以テ社長當客ヲ置ク社長ハ本會社ノ代表シ社務ヲ總理ス
 第二十六條 株主總會ノ決議ニヨリ顧問相議役ヲ置クコトヲ得
 第二十七條 取締役及ヒ監査役ノ報酬ハ株主總會ニ於テ之ヲ定ム

第五章 計算

第二十八條 本會社ノ計算期ハ毎年拾貳月壹日ヨリ翌年五月末日迄ヲトシ半年期トシ六月壹日ヨリ拾壹月末日迄ヲトシ半年期トス

工場創立趣意書

世の中が日々進歩を遂げました。例へば現今のどんな。工業革命も都會でも昔は種神の如くをしかんあんの。あかりしか。ありませんでした。でも、それが段々と進歩発展につれて、石油、石炭、電氣になり、遂に電氣に變化してしまひました。只今では如何なる山奥の一軒家でも、昔の様な、あんののわかりわ見たくても見られなくなる山奥の通り、宮崎友誼會が發明されたものです。それから既に二百有餘年と數へますが、諸君どうです。友誼會の花類松竹梅、櫻牡丹、紅葉龍虎成り、五月蟬、等は、その昔も只今も、少しも變りなく、一種の美術として、いつの世になつても、變りなく歡迎されます。然るに美術は世の進歩につれて、行くもので、す。機械で出来ませんか。或る人は尋ね又事實昔から金を投じてそれを考へて居る人がすくなくありませんが、以前から、ナセン、と申しました。機械の少くないものに機械の應用が出来ました。よが、どんな機械をもつてしても、我々の手に有る技術を發揮することは決して出来ません。我々が國の風俗の改革がありまして、花模様の美術は替はりません。斯様な實力ある。結構な。職業に従事する我々こそは、實に幸福ではありませんか。

實力ある結構な職業に従事する我々がなぜ生活の不安を來たすか

之は皆さん社會に働かずして遊んで莫大な金を儲け美食贅澤を盡くし、冬は温泉及は別荘と、己れのみ楽しみ、人間より金が、毎いと云々な資本主義的の制度と黄金高能主義があるからです。悪い事は、だれしも、見ればやすすく友誼工場主も、多分それに成化されて立ちたる。我々の職工組合も、未だに否認してを有る様です。彼等は只だ金を儲けんとしては、己れの事のみ考へて、産業の發達如何んは眼中にないのです。仕事は、少し、忙しければ、限りなく工場を擴張して、職工がたたらなければ、西東も分らない。百性を、友誼職になれば、金が多きさん、儲かるぞと云つて彼等に誘惑してつれて來るのです。此れが爲め遂に金儲けが目からみ懸念な奴隷生活に陥つて來る徒勞もあります。諸君も善く御承知でしよ此の事。明治四十二年頃には七十三軒の工場で貳千人以上の職工が、大正四五年頃には、工場三十二となり職工は七百八人程になりました。然るに廢業された工場主の中には、結構に暮して居るのに、我々職工は一時に解雇されました。失業の爲めに生活難に追はれ、身になれない。アノコ種役とか致しましてどうぞをう生命をつないだのはありませんか。斯くの如き結構な歴史を今又眼の前に見よとして居るものでありませんか。我々は不安で暮すに居れません。英國には三百五拾年昔に布を織る職工の、徒勞の被用人数を制限すると同

起業計畫ノ大要

- 一、第一回開拓 壹萬貳千五百圓
- 二、第二回開拓 壹萬貳千五百圓
- 一、金四十八百圓
- 二、金四拾百圓
- 三、金四拾百圓
- 四、金四拾百圓
- 五、金四拾百圓
- 六、金四拾百圓
- 七、金四拾百圓
- 八、金四拾百圓
- 九、金四拾百圓
- 十、金四拾百圓
- 十一、金四拾百圓
- 十二、金四拾百圓
- 十三、金四拾百圓
- 十四、金四拾百圓
- 十五、金四拾百圓
- 十六、金四拾百圓
- 十七、金四拾百圓
- 十八、金四拾百圓
- 十九、金四拾百圓
- 二十、金四拾百圓
- 二十一、金四拾百圓
- 二十二、金四拾百圓
- 二十三、金四拾百圓
- 二十四、金四拾百圓
- 二十五、金四拾百圓
- 二十六、金四拾百圓
- 二十七、金四拾百圓
- 二十八、金四拾百圓
- 二十九、金四拾百圓
- 三十、金四拾百圓
- 三十一、金四拾百圓
- 三十二、金四拾百圓
- 三十三、金四拾百圓
- 三十四、金四拾百圓
- 三十五、金四拾百圓
- 三十六、金四拾百圓
- 三十七、金四拾百圓
- 三十八、金四拾百圓
- 三十九、金四拾百圓
- 四十、金四拾百圓
- 四十一、金四拾百圓
- 四十二、金四拾百圓
- 四十三、金四拾百圓
- 四十四、金四拾百圓
- 四十五、金四拾百圓
- 四十六、金四拾百圓
- 四十七、金四拾百圓
- 四十八、金四拾百圓
- 四十九、金四拾百圓
- 五十、金四拾百圓
- 五十一、金四拾百圓
- 五十二、金四拾百圓
- 五十三、金四拾百圓
- 五十四、金四拾百圓
- 五十五、金四拾百圓
- 五十六、金四拾百圓
- 五十七、金四拾百圓
- 五十八、金四拾百圓
- 五十九、金四拾百圓
- 六十、金四拾百圓
- 六十一、金四拾百圓
- 六十二、金四拾百圓
- 六十三、金四拾百圓
- 六十四、金四拾百圓
- 六十五、金四拾百圓
- 六十六、金四拾百圓
- 六十七、金四拾百圓
- 六十八、金四拾百圓
- 六十九、金四拾百圓
- 七十、金四拾百圓
- 七十一、金四拾百圓
- 七十二、金四拾百圓
- 七十三、金四拾百圓
- 七十四、金四拾百圓
- 七十五、金四拾百圓
- 七十六、金四拾百圓
- 七十七、金四拾百圓
- 七十八、金四拾百圓
- 七十九、金四拾百圓
- 八十、金四拾百圓
- 八十一、金四拾百圓
- 八十二、金四拾百圓
- 八十三、金四拾百圓
- 八十四、金四拾百圓
- 八十五、金四拾百圓
- 八十六、金四拾百圓
- 八十七、金四拾百圓
- 八十八、金四拾百圓
- 八十九、金四拾百圓
- 九十、金四拾百圓
- 九十一、金四拾百圓
- 九十二、金四拾百圓
- 九十三、金四拾百圓
- 九十四、金四拾百圓
- 九十五、金四拾百圓
- 九十六、金四拾百圓
- 九十七、金四拾百圓
- 九十八、金四拾百圓
- 九十九、金四拾百圓
- 一百、金四拾百圓

収入見積之部

- 一、壹年間ハ板上少地料十五枚物平均
- 二、金五萬五千貳百五十拾圓
- 三、梅市友誼 八千五百圓
- 四、但シ仕替費金目下反拾圓ヨリ貳拾五圓迄ヲ
- 五、右仕替費ハ反拾圓トス
- 六、拾五枚物地付ばかりとして見積取拾壹名工場ヲ十八名備クトス、
- 七、壹ケ年ノ内ニケ月ハ不景氣ニテ休業トス
- 八、拾ケ月休業シ、組合ノ工場故職工諸君に頼りて一日平均、拾拾五枚トシテ形スルハ既記ノ通りニナラヌ
- 九、拾五枚物地付ばかりとして見積取拾壹名工場ヲ十八名備クトス、
- 十、壹ケ年ノ内ニケ月ハ不景氣ニテ休業トス
- 十一、拾ケ月休業シ、組合ノ工場故職工諸君に頼りて一日平均、拾拾五枚トシテ形スルハ既記ノ通りニナラヌ

一年間ノ支出之部

一、金五萬五千貳百五十拾圓